



# けやき

令和 2 年 9 月 3 0 日  
東村山市立東村山第六中学校  
学校だより 10月号  
東村山市秋津町2-29-14  
発行者 校長 大堀 浩

## 「精神的に成長する」

### 校長 大堀 浩

◆テニスの大坂なおみ選手が全米オープン女子シングルスで優勝しました。

大坂選手は、ハイチ出身の父と日本人の母をもち、大阪市で生まれ、3歳でアメリカに移住したそうです。今大会では、1回戦から決勝までの7試合で、入退場の際に黒人被害者の名前の入ったマスクを着用し、人種差別問題への抗議を示しました。元々恥ずかしがり屋でしたが、「シャイな自分からの脱却」として、精神的にも大きく成長してきました。2年前の大会では、「精神的には3歳児」と自ら発言していましたが、挫折も経て、「精神的に強い人が勝つ。そういう選手にずっとなりたいと思っていたし、一歩進めた。」と言っています。強い精神力や発言・発信力も世界の超一流と言えるでしょう。

「新しい自分になったと思うか」と問われ、「新しいなおみも古いなおみもない。自分がどうやって成長できるかだけだ」と思う。全ての失敗から学ぶことはある。」と答えています。身体の成長が著しい中学生ですが、精神的に成長することを常に意識していきたいものです。

◆昨年度には、オリンピック・パラリンピック教育推進の一環として、9月に、シドニーパラリンピック・陸上競技（視覚障がい）銀メダリストの齊藤晃司選手とブラインドサッカーコーチの岩崎彰治先生に来校いただき、「夢追い人」という演題での講演と、実技指導をしていただきました。実際のメダルも見せていただ

き、オリンピック・パラリンピックが身近なものとなりました。

◆その前の年には、ピョンチャン冬季オリンピックにアイスホッケー女子日本代表として出場した、東村山市出身の床垂矢可・秦留可選手姉妹、元女子サッカー日本代表（なでしこジャパン）の今井（旧姓・長峯）かおり選手、リオデジャネイロオリンピック・トランポリン競技・個人4位の棟朝銀河選手、スキージャンプ競技のレジェンド・葛西紀明選手の話聞く機会がありました。どの方も、「夢をあきらめない」という強い意志のもと、苦しい練習に取り組んできたことが共通していました。生徒の皆さんも、将来の大きな可能性を信じて、精神面も含め、苦しいことにもチャレンジして行ってほしいです。

◆コロナ禍の中、運動会の代替行事の一環として、「全員リレー・大縄跳び大会」を学年ごとに実施いたしました。生徒の体育委員会を中心に準備・進行等を行い、上級生が下級生の手本となる素晴らしい取組になりました。御声援いただきました保護者の皆様に感謝申し上げます。

◆中間考査が終わり、感染防止のために実施していなかった音楽科での歌唱指導を再開してまいります。3月に延期した合唱コンクールができるように準備を進めてまいります。

引き続き、保護者・地域の皆様の御支援・御協力等をお願いいたします。